

痙縮の症状について

けいしゆく  
痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限され、日常生活に支障を生じてしまいます。また、痙縮がリハビリテーションの障害になることもあるので、痙縮に対する治療が必要となります。

手の指が握ったまま開かない

- 物がつかみにくい
- 手首が曲がり、着替えるときに、袖に手を通しにくい
- 指が伸びず爪が切りにくい
- 手のひらを洗うのに苦労する



肘が曲がったまま伸びない

- わきが閉じたり、肘が曲がり、着替えに時間がかかる



足先が足の裏側のほうに曲がってしまう、膝が閉じてしまう

- 足がつっぱって、立っているときにフラフラする
- 足がつっぱっていたり、かかとが浮いて歩きにくい
- 歩くときに、足の指が曲がって痛い
- 足がねじれて、靴や装具が履きにくい、また歩きにくい

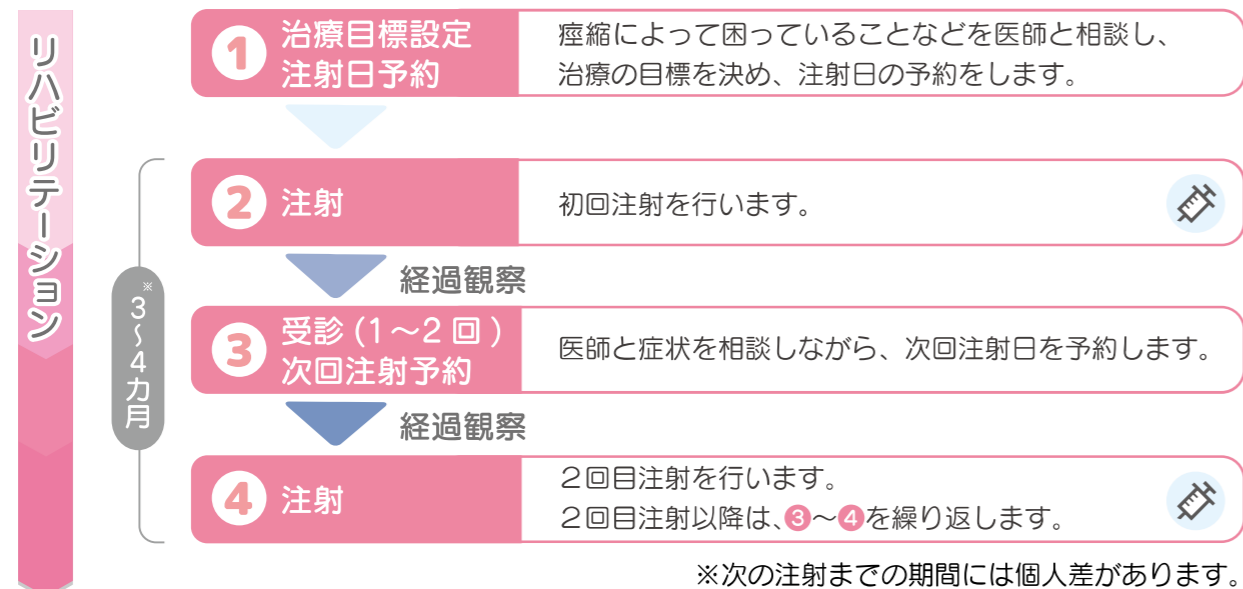


ボツリヌス治療の流れと効果

痙縮に効果的なボツリヌス治療。その流れと効果を確認しましょう。

POINT ① ボツリヌス治療の流れ

ボツリヌス治療を行うだけでなく、継続的なリハビリテーションを行うことが重要です。



POINT ② ボツリヌス治療の効果

手足の筋肉がやわらかくなり、動かしやすくなることで、日常生活動作が行いやすくなるのが期待できます。

着替えなどの日常生活が行いやすくなる



リハビリが行いやすくなる

痛みがやわらぐ



介護の負担が軽くなる



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

佐藤 郁美

さとう・いくみ

当院には1999年入職。脳卒中の後遺症に向き合っている患者さん・ご家族に寄り添った、看護ケアやリハビリテーションを行うよう心がけているそうです。

